

コムギの枯れ熟れ症状対策について

1 はじめに

埼玉県内のコムギ作付けほ場において、土壌環境の悪化や異常気象の影響などにより、成熟期前に葉が枯れ上がる枯れ熟れ症状の発生が見られ、コムギの収量が不安定となっています。

そこで、当センターでは枯れ熟れ症状が発生しやすいほ場条件などについて指標化を行なうとともに、対策技術を取りまとめ、「コムギの枯れ熟れ症状対策」リーフレットを作成し、ホームページで公開しています。

(<http://www.pref.saitama.lg.jp/b0909/suidenkoudoriyou.html>)



図1 枯れ熟れ症状が発生したほ場
※点線の上側が枯れ熟れ部分

2 「コムギの枯れ熟れ症状対策」リーフレットの特徴と活用法

リーフレットでは、枯れ熟れ症状が発生しやすいほ場の判定指標及び診断法に加え、枯れ熟れ症状が発生しやすいほ場と判定された際の対策技術についても紹介しています。

リーフレットに基づいてコムギ作付け前に診断を行ない、それに応じた対策技術を導入していただくのが基本的な活用方法となります。一方で、作付け期間中に診断を行ない、次作に向けて改善点を整理するといった使い方も可能です。

図2 「コムギの枯れ熟れ症状対策」リーフレット

3 枯れ熟れ症状が見られないのに収量が上がらない場合には

農研機構から、本県の成果も含むより広範な多収阻害要因及び対策技術についてまとめた「診断に基づく小麦・大麦の栽培改善技術導入支援マニュアル(総合版)」(https://www.naro.affrc.go.jp/publicity_report/publication/pamphlet/tech-pamph/134377.html)及びスマートフォンでの閲覧に適したマニュアル(https://www.naro.affrc.go.jp/org/narc/crop_diagnosis/index.html)が公開されています。湿害を中心に、土壌の圧密化や土壌化学性、雑草問題などについても診断法及び対策技術が紹介されており、本県のリーフレットと併せてご活用ください。

※本研究は農林水産省委託プロジェクト研究「収益力向上のための研究開発(課題名:多収阻害要因の診断法及び対策技術の開発)」により実施されました。

【問い合わせ先】

農業技術研究センター水田高度利用担当

電話:048-594-8321(玉井試験場代表) FAX:048-532-3113